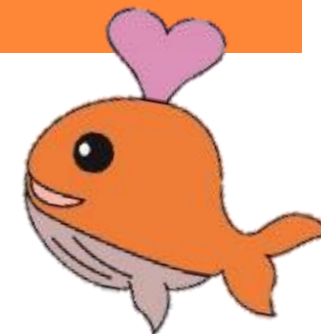


ご入居者が主体的に活躍できる地域を目指して

『あきしまこどもまつり』での3年間の取り組みから



グループホーム『つつじの夢』（東京都昭島市）

古川 みゆき（介護福祉士）

他スタッフ一同

「地域の中での認知症ケアの拠点」として…

- 地域行事にご入居者と一緒に参加
- 認知症啓発活動や「認知症サポーター養成講座」のサポート
- 「介護者の会」や「認知症カフェ」への協力 など



もっとご入居者が主体的に参加できるものがないか

『あきしまこどもまつり』と『つつじの夢』

- ①子どもに対しては面倒をみてあげようという気持ちになり、主体的に関わることができる
- ②ご入居者も準備段階から楽しむことができ、低予算で景品づくりができる
- ③子どもと交流することで、付き添ってくる忙しい子育て世代にも、高齢者や認知症に理解や関心をもってもらえる（異世代交流）



1回目 平成29年5月

『つつじの夢』単独で、「輪投げ」コーナーを担当



景品づくりは、1週間以上前から、皆で協力して行いました



当日は、子どもたちと「輪投げ対決」をして盛り上がりました



2回目 平成30年5月

市内グループホーム合同で、「輪投げ」ブースを運営



来場スタンプを押したり、輪投げの輪を渡したりと、それぞれが大活躍しました



子どもボランティアも受け入れました

景品の準備は、もう“おてのもの”。当日への期待がふくらみます

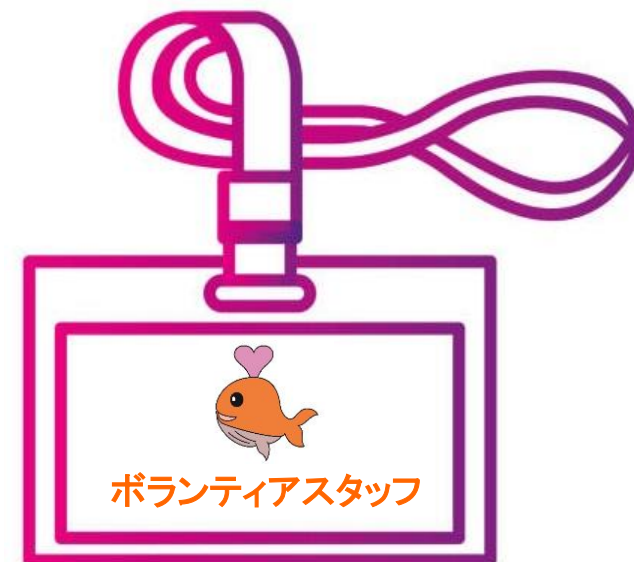


過去2回の反省を踏まえて

- 各施設の職員だけでは、ご入居者の見守りや来場した子どもたちの対応に追われて、啓発活動ができない
- 景品などの準備が負担



- 「認知症サポーター」にボランティアを依頼
- 当日、景品を子どもたちと一緒に作る



3回目 令和元年5月 ボランティアスタッフが参加



事前の景品づくりも楽しみのひとつです



景品づくりも工作として、
来場者と一緒に手作りしました



「くじら釣り」ゲーム
が大人気でした



ボランティアさん
たちがサポート

3年間の活動を振り返って

- 認知症を呈していても、周囲のサポートがあれば、地域社会に出ていくことが可能である
- 共生社会のキーマンである「認知症サポーター」の方々に対して、活躍の場を提供でき、さらなる協力が期待できる
- いきいきと活動するご入居者の姿を通して、地域の方々の認知症に対する理解が深まる



ご入居者の生活がより充実したものになる

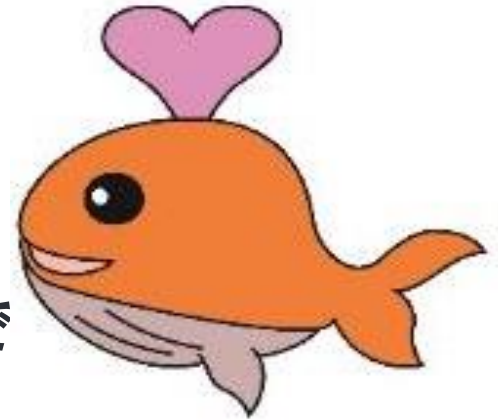


まとめ

今後もグループホームが地域で活躍できる活動を継続していくためには.....



- 他のグループホームや地域の関係機関と協力し、参加しやすい環境を整える
- 地域住民とグループホームのご入居者が触れ合うことで認知症に対する理解を深める
- 「認知症サポーター」とのさらなる連携＝共生社会のキーマン



「認知症を呈していても、主体的に活躍できる地域づくり」



ご清聴ありがとうございました